

SiNAPIS ニュース

社会活動センター・シナピスは平和を実現する使命に向けて生きる人びとを応援します

No. 69 2022. 2

“すべてのいのちを守ろう”

— 誰も置き去りにしない世界に向けて No one will be left behind —

2021 年正義と平和大阪大会テーマ



愛の道にあって、苦しむ人の傍らにいる

<第30回「世界病者の日」教皇メッセージ>

カトリック大阪大司教区 社会活動センター

シナピス



地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス(からし種)です。
イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、
やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

TEL 06-6942-1784 FAX 06-6920-2203 E-mail sinapis@osaka.catholic.jp

「大会を終えて」

カリタスジャパン担当司祭
松永敦神父

正義と平和全国大会が 2021 年 11 月 22 日と 23 日に開催されました。私が担当したのは 23 日の特別プログラムでした。22 日は平日だったので、23 日しか参加できない子ども・青年・外国人を対象としたものです。実行委員会は大学生を含む青年達を中心となって、準備を進めてくれました。今回、実行委員になって、私個人として最も大きな収穫だったのは、リーダーシップがあり、さまざまな能力を持った青年達が教会にいるということを知ることができたことです。

実行委員で話し合った結果、特別プログラムの講師には漫画家でタレントの星野ルネさんをお招きすることになりました。星野さんはアフリカのカメルーンにルーツを持ち、4 歳で家族とともに来日したこと、様々な違いを体験してこられました。そして、それらを乗り越えて、互いに認め合うことの大切さを今回のプログラムの中で漫画を用いて教えて下さいました。現在の日本はグローバル化が進み、在留外国人は 290 万人（2020 年 6 月末現在、出入国在留管理庁の HP より）にも及び、その中には日本で結婚し、家庭を築く方も多くおられます。特に教会の中をみると、外国にルーツのある子どもが多いことに気がつきます。日本において、外国にルーツのある子はなかなか自尊心が育ちにくいと聞いたことがあります。そのような子どもたちにとってもいいメッセージを送って下さいました。個人的には、星野さんには日本中の多くの教会で子ども向けに話をして頂きたいと思っています。この記事をお読みになった方の中で、外国にルーツのある子どもが多い教会に所属しておられ

る方はぜひ星野さんを講師として招いて講演会を開いて下さい。

オンライン開催ではあったものの、不測の事態に備えて、実行委員は前日から会場である神戸中央教会に集まり、準備をしました。オンラインで開催するメリットもありますが、集まって行う講演会の良さをあらためて感じました。



今月のページ

■ ニュースレター 目次 ■

- 1 巻頭言
- 2 子どもたちに伝えたい平和
- 3 こども基金報告
- 6 障がい者委員会より
- 7 大人たちに伝えたい平和
- 10 時報
- 13 助けてください
- 15 ホームだより
- 17 ガリラヤの風
- 19 教えてください～！！第 21 弾！
- 21 みんなのけいじばん
- 23 あとがき

■ チラシ・ご案内 ■

- ・シナピスの風
- ・2月の祈り
- ・忘れないあきらめないカレンダー
- ・シナピスの風
- ・第 55 回「世界平和の日教皇メッセージ」
- ・第 30 回「世界病者の日教皇メッセージ」
- ・署名 憲法改悪を許さない全国署名
- ・署名 菊池事件の再審開始を求める署名
- ・第 9 回いのちの光 3. 15 フクシマ
「フクシマが背負ってきたもの伝えつづけるもの」



子どもたちに 伝えたい平和



支援と共に解決策を考えること ー社会福祉と社会変革ー

カトリック六甲教会信徒 高橋純雄

私の勤めている六甲学院には、ニューヨークに行く研修旅行プログラムがあります。20人程の高校生たちが姉妹校のフォードム高校の生徒たちと文化交流をしたり、学校のあるブロンクスの街を歩いて、その地域の POTS と呼ぶ福祉施設を訪れたりします。

世界中の人たちが経済や芸術文化の中心都市として憧れるマンハッタンの街と対照的に、北側に隣接するブロンクスの街には、仕事はしていても日々の食事が困難であったりホームレスであったりする人たちが多く暮らしています。POTS は貧しい人たちのために食事を提供したり、散髪したり医療相談や法律相談をしたりする場所のある総合的な福祉施設です。フォードム高校の生徒たちはそこで社会奉仕活動をしています。街を案内して下さるガルピィ先生は、ブロンクスの街を歩きながら両校の生徒にこんな話をしてくれました。

「もしも、川辺にいる時に、子どもが木切れをつかみ、おぼれそうになりながら流れて来たら、私たちは必死でその子どもを救おうとするだろう。しかし、それが1人ではなく、後からも3人4人と次々に助けを求めながら流れて来たとしたら、上流の村落で何が起こったのかと、その原因を考えないだろうか。私たちの役割は、ただ目の前にいる人たちを助けるだけでなく、社会の中に助けを必要とする人たちが生まれる仕組みがあるならば、その仕組みを解明して解決する方策を探すことだ。」

六甲学院の生徒たちは、インド社会では今も排除されがちなハンセン病施設の子どもたちに毎月募金をしたり、洪水のあった国や地域のために緊急支援募金をしたりします。それはとても大切なことです。同時にどうして差別を受けていたり災害のたびに苦しんだりする人たちがその状況から抜け出せずにいるのか、社会的・歴史的背景を探りながらその解決策を考えることも大切です。社会福祉的な働きと共に、正義に基づく社会変革が必要であることを、若い世代には伝えることが大事だと考えています。

グアテマラ、障害者のための組織「サンティアゴ・アティトラン障害を持つ人々の親と友人協会」(ADISA)の活動報告 2021 年



日本ラテンアメリカ協カネットワーク・新川志保子

今年度もグアテマラの障がい者のための団体 ADISA をご支援いただきありがとうございました。

昨年から続いている新型コロナウイルスは 2021 年も人々の生活に大きな影響を与えました。特にデルタ変異株の感染が広まった 7 月から 9 月頃までは感染者数が非常に多く、サンティアゴ・アティトランも最も危険なコロナ赤信号が続きました。このような中、活動に制限はあったものの、ADISA は基本的なコロナ対策をしっかりと行いながら、セラピーを続けることができました。この 1 年間でセラピーを行った子どもは 87 人（女の子 31 人、男の子 56 人）でした。このうち機能を回復してセラピーを終えた子どもが 14 人いました。

セラピーはそれぞれの状況に応じて個人とグループにわけて行いました。また、ADISA まで来ることのできない子どもは家庭訪問をしてセラピーを行いました。一人一人の子どもの詳細なカルテを作り、それをスタッフで共有して円滑なセラピーを行っています。家族への支援も継続し、障がい児を抱えて親が孤立しないように親の集まりを持つ、また家庭でもできるセラピーを覚えてもらう、などの活動を行っています。



食料支援のようす

生活が困窮している 200 の家庭には食糧支援も継続しました。地域での障がい児の生活状況を確認したり、食糧支援などが円滑に行われるように、親たちを組織し「親の会」をつくりました。現在では 250 家族が参加しています。

シナピスこども基金の助成は基本的に 0 歳から 6 歳までの乳幼児のセラピーとその親への支援に使われました。それと今年は一部を保健所支援にも使わせていただきました。というのは、予算不足で職員がコロナ対策用の医療用ガウンやマ

スクなどをつけることができず、この状態でコロナ検査や治療を行うのが危険だったからです。とりわけ障がいを持つ子どもは免疫機能が低いことが多いので、命にかかわることもあります。これらコロナ対策用品を ADISA から提供して検査や治療に活用してもらいました。

5年間の活動を振り返って

シナピスこども基金からの5年にわたるご支援は、ADISAの活動を通して障がいをもった子ども達とその家族に本当に役に立ちありがたいものでした。この間、プールでのセラピーや犬のセラピーの導入、欧米から専門家ボランティアによる新しいメソドロジーを取り入れるなど、活動の幅を広げることができました。



マスクをつけてのセラピー



保健所に寄贈

昨年からはコロナ禍に見舞われ、大きな試練となりましたが、なんとかそれを乗り越え、活動を継続しています。昨年はシナピスこども基金はじめ緊急支援が集まり、それを医療品やコロナ対策品、食料援助などにあてることができました。しかし緊急支援はずっと続くものではなく、今後の課題は生活が困窮した家庭をどのように支援してゆくかです。サンティアゴ・アティトランは観光地で、観光関連の仕事で光客が戻るまでは生活をたてなおすのも難しいです。子どもへのセラピーができて、そのかんじんな子どもが栄養不良ではどうにもなりません。

それでADISAは緊急支援から持続可能な支援を目指し、各家庭で家庭菜園を作り、鶏の飼育を行い、栄養状態を良くするプロジェクトを始めています。資金難などで希望通りには進んでいませんが、少しずつできるところからやっています。

ADISA 代表のフランシスコ・ソフェルさんとスタッフ達から心よりの感謝の言葉を預かっています。信者の皆さまの温かいご支援とシナピスこども基金のご尽力でADISAの活動が維持できました。5年間のご支援と昨年のコロナ緊急支援、本当にありがとうございました。



家庭菜園

支援を受けているこどもたち



名 前: イングリッド・ロサリオ・ラミレス

生年月日: 2020年6月11日

年 齢: 18ヶ月

イングリッドは一人っ子です。若い両親は、彼女が生後5ヶ月たっても首が座らないのに気が付きました。そこでADISAに支援をもとめてやってきました。早速小児科医に見せたところ、ダウン症の可能性が高いと言われました。

それからお母さんに協力してもらいフィジカルセラピーと早期感覚刺激療法を始めました。最初はあまり進みませんでしたが、家庭でのセラピーの重要性について粘り強く説明し、説得し、お母さんも協

力的になりました。それで状況がかなり良くなりました。セラピーをおこなうスタッフだけでなく家族と連携してすすめることでこれだけ進みました。

名 前: マリア・ファビアナ・アフコット

生年月日: 2020年2月23日

年 齢: 20ヶ月

マリアは2番目に生まれた子どもでした。8ヶ月で生まれ、助産婦さんに自宅に取り上げてもらいました。しかし泣き声を上げず、助産婦さんが手を尽くしてなんとか生かそうとしました。そうして数週間がたってもマリアの泣き声はほとんど聞こえませんでした。泣く力もないようでした。6ヶ月がたつと両親は娘の顔つきがおかしいことに気づき、病院に連れて行きました。医師は頭が普通より小さく、目や口、鼻も小さいことに気が付きました。より詳しい検査が必要ということになり、ADISAを紹介し



てくれました。そして小児科医に診てもらい、トレーチャー・コリンズ症候群であるようだとわかりました。それからフィジカルセラピーと早期感覚刺激療法を週に一回行いました。お母さんにはこの症候群についてよく説明し、顔の筋肉が通常より小さく、食べることが難しいこと、そしていつも鼻水が出ることなどを伝え、家庭で何に気をつけるかなどのアドバイスをしました。セラピーとお母さんの努力下、マリアはもう直ぐ歩けそうなほどに成長しました。セラピーを受けるのが好きで、お母さんとお姉ちゃんもいつも一緒です。お母さんはいつもマリアの成長を見守り、彼女に関わる全ての活動に参加しています。

すべてのいのちを大切に、「誰をも排除しない」ために

障がい者委員会担当司祭

石井望神父

障がい者委員会ではジェンダーや性的マイノリティーに関して考えることがテーマの一つにあがっています。今回は先日放映された NHK スペシャル『ジェンダーサイエンス 1』という番組を紹介したいと思います。この番組では、私たちは生まれつき「男か女」のどちらかに決まっているという理解や、「男らしさ」「女らしさ」、社会的・文化的に作られた区別が無理解や性差別の原因になっていることも指摘しています。以下番組内容をかいつまんで紹介します。

* 身体的な性差は必ずしも「男か女」ではなく変化する

身体的性差は性染色体の組み合わせ、X 染色体が受精すれば女性に、Y 染色体が受精すれば男性になることが知られており、受精から 8 週目、いわゆる「男性ホルモン」テストステロンが強いと身体的特徴が男性に、弱ければ身体的特徴が女性になるのだそうです。

しかし、ドミニカ共和国のサリーナス村では、出生時の女性が思春期の一年間くらいの間に身体的には男性に変わる例が 50 人に 1 人に上るそうです。

* 脳の性差や性自認も「男か女」に二分できず、環境や経験によっても変化する。

脳の部分で大きさや反応など「女性」グループと「男性」グループで特徴が違う場所が 10 か所あるそうですが、個人単位で見ると、脳の性差が明確な人は 10 パーセントのみで、90 パーセントは男性と女性のどちらの特性も入り混じった「モザイク脳」なのだそうです。ジェンダーは「男か女」に二分しようとしませんが、9 割の人はこの枠に当てはまらないことになります。言い換えれば LGBTQ の素質を持っているのです。

また、「男性」ホルモンのテストステロン量は、生活環境や、社会環境、出会い・交流や学びによって減少し、脳活動に変化が現れるのです。

* 人類進化とともにジェンダー理解も変化してきた。

人類の進化の歴史をたどると、男性のテストステロンが減少し、女性のテストステロンが増加傾向にあるのだそうです。攻撃的でないほうが有利な生活環境への変化の影響と思われます。

「中性化」は人類進化の宿命なのかもしれません。

* 個人個人の幸せに焦点が当たるようになり、それぞれの人のセクシュアリティが肯定され、ジェンダーの理解も変化し多様な性理解になってきました。「LGBTQ」ということばさえ「思い込み」としてなくなるでしょう（番組ゲストの言）。

社会や文化の中で形成されてきたジェンダー理解の見直しは、教会にとっては聖書や教義理解の深化と共同体の成熟を迫られる課題でもあるでしょう。

特集！

子どもが 大人に伝えたい平和



京都ノートルダム女学院高校の取り組み

2021年10月のある日、京都ノートルダム女学院高校の生徒たちからシナピスへ電話がありました。

「私たちは、テレビの報道で日本に難民がいることを知り、日本の難民問題について学びたいと思いました。」電話を受けた事務局スタッフのビスカルドさんは、ちょうど翌月に同校の高校二年生への黙想会に呼ばれていましたので、黙想会後に生徒たちに会う約束をしました。

京都ノートルダム女学院高校のグローバルコースでは、生徒自身がSDGsに取り組むテーマを決め、自主的にフィールドワークを行う授業があるそうです。シナピスに連絡をしてきた四人は「世界の難民」に目を向けて調べるうちに、身近な日本にも難民がいることを知りもっと深く学習したいとの意欲を持ちました。生徒たちは難民問題について疑問に思ったことをビスカルドさんにたくさん尋ね、難民問題の学習を進めると同時に、日本社会で難民の実態を知ってもらおうと、イオンモール樟葉店で募金活動をする場を貸してもらえよう交渉したのです。イオンモールから快諾を得、12月22日に無料で場所を借りることに成功しました。

また、生徒たち自身が難民当事者に出会うために、12月11日に大阪のシナピスホームを訪ね、実際に難民の皆さんと交流しました。難民たちは、一生懸命学ぼうとする生徒たちを温かく迎え、手料理をふるまい、庭でできたミントを摘んで紅茶に入れてデザートと一緒に楽しみました。

そして12月22日、イオンモール葛葉店で3時間にわたり、生徒たちは声を限りに募金を呼びかけたのでした。



私たちは京都ノートルダム女学院高校の授業の一環でHutopia (ヒュートピア)という名前で活動している高校生4人組です。

私たちヒュートピアは、日本に住んでいる海外の方に住みやすいと思ってもらえるような活動を行なっています。そこで、昨年12月22日(水)に樟葉モールにて募金活動を行いました。シナピスの皆様のご協力もあり7万円以上お金を集めることができました。少しではありますが生活支援に役立てていただけたら幸いです。

また、初めて私たちが主体となり募金活動を行なったことを通して、「高校生でも社会に貢献することができる」ということを生で実感しました。このような経験ができて、本当に幸いです。



手作りの募金箱

まず初めに何も分からず右往左往していた私たちにたくさんアドバイスをしてくださったビスカルドさん、シナピスの皆さんにこの場を借りて感謝したいと思います。恥ずかしながら初めは日本に難民の方がいるということも知らず、日本には程遠い話だと思っていました。シナピスがテレビ番組のキャストに出ていたニュースをきっかけに難民のことを知ったのですが、そこから驚きの連続でした。まずそもそも日本にも難民がいて、困っているということ。難民として認められたいけどなれなくて苦しんでいる人がいるということ。驚きと共になんとかしないといけない問題だなとも感じました。日本では全然難民に関するニュースが出回ってない!今回の募金活動を通して誰か一人でも「難民」というワードに引っかかってくれて興味を持ってくれる人が増えることを願います。

張惠

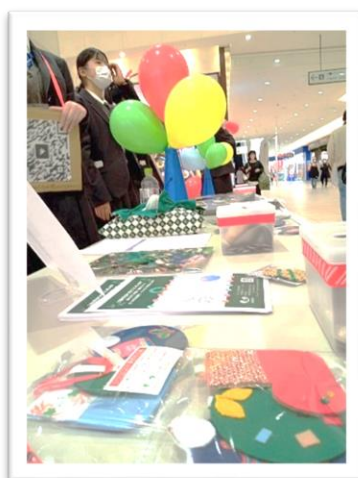


もしビスカルドさんが率いるシナピスの皆さんに出会っていなかったら…と考えると私たちは難民のことについてもっと知りたいと思える機会がなかったかもしれません。私は将来、発展途上国の方、難民の方など世界で困っている方を少しでも減らせるような仕事に就きたいと思っていたのですが、難民の方についてビスカルドさんに教えて頂いた時、無知

だった自分が本当に情けなかったです。もっと知識を増やして、身の回りの人に伝えることが日本の難民認定率が上がることに繋がるのではないかと感じました。

先日の募金活動で私たちの活動に目を向けてくれた方が一人でも多く日本の難民制度に対して興味を抱いてくれることを願っています。また、今後も今回の活動の改善点を活かして、より歩行者の方に足を止めてもらえるような募金活動を行っていきます。

中井瑠音



寄付のお礼にシナピス工房の作品を差し上げました



もし学校で GW(Global Workshop) という授業が行われていなかったら。もし私たちが活動に行き詰まり先生方からビスカルドさんのことを紹介されなかったら。このもしもがなければ私たち4人は日本にいる難民の方の存在を知ることができなかったかもしれません。そう考えると、ビスカルドさんに出会い、シナピスホームにお邪魔して、実際に困っている方に直接

お話を聞くことが出来て、本当に良かったと感じています。高校生という若いうちに日本における大きな課題を知り、実際に募金活動を行ったりと、とても貴重な経験が出来ているなと思っています。今まで知らなかったことを学校の授業を通して沢山知ることができました。これからこの活動を通して、日本にいる困っている方の手助けや、世界中の困っている人たちの助けになるよう、少しでも多くの人に今の状況を伝えられたらと思います。また、このような活動に興味を示し、立ち止まってくれる方が少しでも増えることを願っています。

小林莉奈



シナピスカフェで
「私の国の料理、味はどうか？」

まず、シナピスとの出会いに本当に感謝の言葉しかありません。まさに私たちが求めていた活動ができて、いろんな方と出会えて最高でした。何も分からない私たちにビスカルドさんやシナピスホームの方々が優しく教えてくださって、このGWという授業がなかったらこんなにも大事な事実を知る機会もなかったのかと思うと言葉が出ません。

これからもっといろんな方々に知っていただけるように私たちがなりに活動して行きたいと思っています。本当に楽しかったです。ありがとうございました。

入江心愛

時報1月号より

イエスにならう生き方を求めて

悩みを持つ人々の痛みに寄り添い、
その悩みを少しでも分かち合うことのできる、
教会共同体をめざして

日本カトリック司教団著「いのちへのまなざし」
増補新版より

第5回「貧しい人のための世界祈願日」

(2021年11月14日)教皇メッセージを読む

「貧しい人びとはいつもあなたがたと一緒にいる」

誰も置き去りにしない世界を「だれと」とともに歩むのかを、
このメッセージから読み取ることができます。そのポイントを話して
いただきます。

教区事務局長補佐 崔 周 永

教皇フランシスコは、メッセージを二つの軸で展開していきます。まずは、「貧しい人」の本質について、そして、私たちのことについてです。

貧しい人は、こちらから施されたり、慈善行為によって憐みの対象にするものではありません。貧しい人は人間としての揺るぎない尊厳を持っていて、数字や統計で表れるものではなく、私たちに、神様の御顔を見せてくれる福音の宣教者なのです（マタイ5・3参照）。貧しい人びとに近づくこと——イエスがなさったように共感を通し、なおかつ自分と貧しい人との同一化を通してこそ、私たちはそれが出来るようになるのです。ある女から高額の香油を惜しみなく注がれたイエス（マルコ 14・3参照）ですが、このイエスはご自分の十字架での死を見据えた、窮境に陥った人びとと同じ存在であると、私たちは認識するようになるのです。共感——ともに感じることから、私たちは貧しい人との一体化にまで進むのです。こういったイエスの振る舞いは、教皇が結論でおっしゃっているように「わたしたちも貧しい」という自己認識なしには到底出来ません。

貧しい人と私たちが同じなのだ、と言うのは、気をつけて理解すべきです。なぜなら、私たちは他者と全く同じだと感じることは難しいからです。教皇はこういった緊張を保ちながら、回心への呼びかけをされています。真の富は地上にあるのではなく、天に積むべきなのです。キリスト者の私たちに、開いた心で神の御声に耳を傾けるようにと促しているのです。今、世の中の人びとが追っている価値観に向かって、勇気をもって「いいえ、違います」と言えること、その真逆の生き方を選ぶことです「悔い改めて福音を信じなさい」（マルコ1・15）。

「貧しい人びとはいつもあなたがたと一緒にいる」（マルコ14・7）。これは、神様の御顔に出会うのは貧しい人びとを通してという意味です。もし、私たちが彼らを、世の中がしているように、ただの助けの対象とし、非難の対象にまで追いやる場合、私たちは決して、貧しい人びとの福音的本質はもちろん、私たち自身の貧しさにも気づくことができなくなるのです。教皇は、現代社会が生み出している、貧しい人びとのための政策や対処などが、あまりにも彼らを疎外していることに注意を喚起しておられます。これらを、「新しい貧困」という言葉を使い、私たちに根本から振り返って、自らを見直すようにとおっしゃっています。

ここでは、貧困について、貧しい人びとの立場や状況を指すだけでなく、その意味を広げ、私たちのうぬぼれや無感覚といった、自分は決して貧しくないと思っていることこそ、福音の呼びかけ、つまり「回心」と遠く離れていることだとおっしゃっているのです。

肝心なことは、結局、他者、とりわけ、貧しい人とのどのくらい共感出来るか、勇気をもって自分を開いていけるか、自分の中にある貧しさに気づき、認めるところまで進めるかということでしょう。真に自由になれるかどうかです。

「貧しい人びとはいつもあなたがたと一緒にいる」

貧困者をしっかりと受け止めながら、同時に活性化をどう進めるか

変わりつつある釜ヶ崎

2021年 11月22日～23日に「正義と平和」全国集会 大阪大会が開催されました。その分科会 NO.14 で「社会の底辺に置かれた人たちが生きる釜ヶ崎の現状に学ぶ」のテーマで Zoom による分科会を開催しました。

南は鹿児島から北は北海道までたくさんの方が参加されました。中には貧困地区で既に支援活動されている方々も居られました。

①See②Listen③Share④Act のステップを踏んで、今、置かれている立場で自分自身が出来ることは何だろうか？ 何を求められているか？ 各自が具体的な目標と活動計画を見出す機会になったのではないのでしょうか。

日雇い労働者の街として知られる大阪市西成区の一角が通称、釜ヶ崎です。生活保護支給率は 40%と高率。高齢化が進み、最近「労働者の街」から「福祉の街」に変わりつつあると言われています。ここ数年で釜ヶ崎は大きく変貌しつつあります。

長年、釜ヶ崎の支援に取り組まれている3名の方に発題頂き、「みことばと祈りの集い」では30年以上「ふるさとの家」で活動されている本田哲郎神父にご指導いただきました。また、「釜ヶ崎に学ぶ」と題して阿倍野教会の野村さんから報告がありました。

暴動、貧困ビジネス、反社会的勢力、臭い、汚い、怖いと敬遠される地域、釜ヶ崎が2012年、当時の橋下市長が、えこひいき行政と称して「西成特区構想」を発足させ、現在まで200億円近い資金が投じられ、医療センターと市営住宅が新設され、衛生環境や治安は見違えるように改善されました。行政とキリスト教協友会、NPO 法人釜ヶ崎支援機構等の支援団体や地域住民が「貧困者をしっかりと受け止めながら、同時に活性化を進める」との思いを一つにして真剣に検討が進められていることが感じられました。

「あいりん総合センター」跡地に建設予定の労働施設は従来の労働者の求人紹介に加え、生きることが不器用な人達を追い出すのではなく、就労機会創造、扶養照会なしの生活保護受給、高齢者住宅提供など「人が人として」生きることが出来るアイテムを備えた施設にするべく模索が続いています。



オープン間近のリゾートホテル（左）
JR新今宮駅ホームから望む

このような変化に伴いたくさんの「すきま」や「ひずみ」が出てくることも予想されます。その中で私たちキリスト信者のなすべき事がたくさんあると感じました。

変わりつつある釜ヶ崎の現状を自分事として捉え、まずは釜ヶ崎に足を運んでみませんか？

（住之江教会信徒 有村 洋）

▶発題者

●吉岡基^{もと}さん キリスト教協友会共同代表

宣教を前面に振りかざすと釜ヶ崎では受け入れられず、先人たちは苦悩し、つまずき、苦労の連続であった。地域に根ざす支援活動と共同の取り組み「~のために」から「~とともに」の志向で「こどもの里」開設、アルコール依存者、高齢者への支援を行う専門のグループが結成された。「人を人として」釜ヶ崎の現実を、教会や社会へフィードバックし問題を提起した。また、個別の支援問題の共有化に向けて努力した。

釜ヶ崎は絶えず国策や社会情勢の変化により翻弄されていたが、唯一状況を変えていったのは常に当事者の粘り強い「闘い」であった。

●松本裕文さん NPO 法人釜ヶ崎支援機構事務局長

コロナ禍の中、「いのちを守る」との理念の下、行政・支援団体の連携でシェルターでの住民票登録、ワクチン接種が実施された。生活保護の扶養照会の緩和や、ホームレスにも特別定額給付金が支給された。

就労支援の幅の拡大と保証人無しで即日入居できる住まいの提供に力点を置いて活動している「ヨリドコオンライン」を立ち上げ、困窮者が必要な相談窓口や支援団体にたどり着けるようにしている。

●白波瀬^{しらばせ}達也さん 関西学院大学准教授

阪神淡路大震災の復興時は日雇い求人は126万件だったが2018年は27万件に激減している。行政や支援団体、住民、地域団体等と連携しながら、トップダウンではなくボトムアップで「西成特区構想」が2013年から始動し、不法投棄や違法路上賭博は目に見えて減るなど生活環境は向上した。2018年から「再チャレンジできる町」のスローガンの下に高齢者の就労機会の開拓、居場所の再構築等が検討されている。今、注目されているのは「あいりん総合センター」の跡地利用である。「賑わい創出」のための大型ホテルも来年初めには開業予定である。地域再生に経済活性化は不可欠だが、今居る社会的弱者の排除に繋がらないようギリギリのバランスのもとに、まちづくりが進められている。



アリさん一家



(アフガニスタンにいた頃のアリさん家族)

無事にイランへ入国できたアリさんと二人の幼い息子ですが、当初の滞在ビザが1月2日に切れてしまうのに、オミクロン株水際対策で日本が事実上鎖国をしているため、身動きが取れません。何とか年末にイラン滞在ビザの延長申請をすることができました。

現地での暮らしは厳しく、倉庫のようなところで身を寄せ合って暮らしているとのこと。みなさまどうぞアリさん一家のために引き続きお祈りください。

Rさん一家

引き続きパキスタン滞在中のRさん一家。アリさん一家同様、年末に何とかパキスタン滞在ビザの延長申請をすることができましたが日本への入国は難しく、親タリバン派が多いパキスタンでの先の見えない滞在中に精神的にも肉体的にも疲れがピークの状態です。

生活環境も厳しく、安宿のボイラーが故障していて、お湯が出ない、ヒーターが付かない中で生活をしています。寒さのあまり数日眠れなかったと報告がありました。

常に気丈にふるまっていたRさんですが、「一生懸命退避支援活動をしているシナピスのみんなに弱音を吐いて申し訳ないが本当に寒くて辛い、一刻も早く日本のビザが出るようにして欲しい。」と打ち明けるメールが届きました。

オミクロン株感染は広がるばかり、どちらも人のいのちに関わることなのに、今のわたしたちは政府の判断を待つしかありません。

Rさん一家が希望を見失わないように、みなさまどうぞお祈りください。

Gさん親戚一家

10月号で紹介した、イランに3か月のビザで滞在中の女性と子どもばかりのGさん親戚一家です。

当初は3か月あるので、その間に日本へくるビザの取得をしようと頑張っていました。こちらも日本の鎖国政策で、外国人への新規ビザ発給が止められているため、身動きがとれません。

長期滞在になる可能性があるのでイラン滞在中のビザ延長申請をしました。

この三家族以外にもアフガニスタンから助けを求め待っている人が沢山います。
コロナの感染拡大の影響もあり
救援活動は思うように進みません。
私たちは日本へ呼び寄せるだけでなく、諸外国へ行く道も探し始めています。



祈りの集い



第3回シナピス主催「アフガニスタンのための祈りの集い」を昨年12月9日に行いました。この集いではアフガニスタンのその後や越冬について、長年アフガニスタン取材してきたフリージャーナリスト西谷文和さんにビデオメッセージで伝えて頂きました。現地通訳アブドラさんから送られた生々しい写真や動画を見ながら、アフガニスタンのために心をあわせて祈りを捧げました。

また、ビデオでは銃撃で亡くなられた中村哲さんの、「食料がないから争いがおこる、水さえあれば食料ができる、武力ではなく米や小麦で平和を勝ち取るもんだ」という言葉を紹介しました。「武力ではなく、食物で平和を勝ち取る」、私たちにも出来ることではないかと考えさせられました。

第4回シナピス主催「アフガニスタンのための祈りの集い」は1月13日に行いました。今回の集いでは、イラン出身のバハラムさんに「すべての人の平和のための祈り」という内容のコーランを捧げて貰いました。「分け隔てない、宗教も関係ない。世界のどこにいても神様は私たちを守り平和に導いてくださる」という内容の祈りが心に沁みました。

今回もたくさんの方にご奉仕を頂きました。聖歌は夙川教会信徒によるハープ演奏に男女混声合唱、共同祈願は大阪在住の高校生、那覇教区信徒の方、香港カトリック日本人会の方にもご奉仕頂きました。祈りの力で平和の輪を広げていきたいと思っています。



これまでシナピス主催祈りの集いではアフガニスタンのために祈ってきました。次回からは、アフガニスタンを含む「世界平和のため」に、引き続き祈りを捧げていきます。

また、「祈りの集い」を一緒に作ってくださる方も募集しています。

朗読、歌声、楽器のご奉仕に興味がある方は是非シナピスまでご連絡をお願いします。

次回は2月10日(木) 20時半～

「病者のために祈る」

！！ 2月からZoomアカウントが変更になります ！！

Zoom ミーティング ID: 761 071 2034

・ パスコード: 123456



シナピスホーム便り



2022 年になりました。本年もシナピスホームをどうぞよろしくお願い致します。
新年初めのカフェ開催日は 1 月 12 日。新しい難民移住者も仲間入りし、みんなで準備を行いました。スイーツは「おぜんざい」です。

山田 直保子



もっと甘く!?

日本のおぜんざいは難民移住者の皆さんも大好きで、ずっと作ってほしいとお願いされていたのですが、なかなか作れず、新年初めの開催日に振る舞いぜんざいとして玄関に立ち、ご近所の皆さんに新年のご挨拶がてら、ふるまおうと決めていました。お餅はやめて白玉粉を使い、みんなでころころと白玉を丸めて作りました。ぜんざいは大納言小豆を使いコトコトとゆっくり時間をかけて煮ました。

お砂糖は健康の事を考えて、レシピより半分少なくしました。味見をすると、とっても甘くていい感じに煮あがりましたが、難民移住者の皆さんは「美味しいけど、もっと甘いはず」「美味しいけど、お店のはもっと甘い」「美味しいけど缶のしるこは、もっと甘い」と総すかん状態…。必ず「美味しいけど」とつけるところに作ってくれた人に対してのみんなの配慮があって優しさも忘れないのですが、砂糖の甘さの感覚にも個人差があり…。

Sweet?
Not sweet?



新年早々トラブルになりそうになりましたが、日本人はこれで甘みは大丈夫だから、あなたたちは各自で砂糖をいれるようにという事で決着しました。





雪とともにお客様が…

カフェをオープンしてしばらく外の様子を見ていたのですが、タイミング悪く大寒波の影響で極寒、雪が降りだしました。みんな、ふるまいぜんざいの事を忘れ「わー！雪だよ！」と大喜び！全員外に出て「素晴らしい」と感動していました。雪が雨になり、がっくりして中に入り、雪が降りだすと、また雪だ！と飛び出しの繰り返しで、目をきらきらさせて写真を撮ったり、頭についた雪を触ったり楽しんでいました。

しかし雪の中、とても寒いので人っ子一人歩いていません。今回は断念。お客様もなかなか来られず「こんな寒い日に誰がくるもんか」と拗ねていたところにいつもの常連さんが来てくれました。寒いのにありがとうございますと心から発した言葉が、みんなの喜びを語っていました。

いそいそと準備をして、おぜんざいも温め、お出ししました。甘さもちょうどいいというお客様にみんな勉強になったようでした。

そのあともお客様が来られたら「寒いですね」「ありがとうございます」と彼らは一生懸命おもてなしをしてくれました。

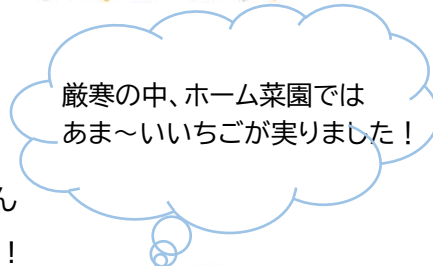
新しい難民移住者は料理が得意な話をしてくれ、土曜日に披露すると意気込んでくれました。とっても楽しみです。

今年は色々宣伝がてら難民移住者を連れて外にでていこうとか、あれこれ構想を模索しています。

お客様もいろんなアドバイスや具体的な提案をしてくださり、本当に嬉しいです。皆さん、難民移住者が生活できるように真剣に考えて下さっていてありがたいです。

そんな矢先、新型コロナウイルスの感染拡大の為、19日はカフェをお休みしました。いったいつまでこんな状態が続くのか不安だらけですが、難民問題はまったなしです。このカフェを通して、人を人としてみてくれない数々の入管の問題を知ってくれた方も多いです。一つの力が合わさるとたくさんの力になります。

難民移住者に今年は少しでも希望が持てる一年になりますように。





投稿欄 “ガリラヤの風”



「オレは神父か、ヤーさんか」



阿倍野教会 野村英隆

大阪大司教区南地区社会活動委員会は、2005年から釜ヶ崎炊き出し支援活動を開始しました。コロナ禍で一時支援は中断しましたが、昨年末から再開しています。私はこの活動への参加を含め約15年間、釜ヶ崎に通いました。この間に、主として「炊き出し」で出会った7人の生活保護認定のお手伝いも経験しました。その中に忘れがたい二人がいます。

◇家賃滞納と孤独死

Kさんは「炊き出し」以外の日は空き缶を集めていました。ある時、発作で京橋の病院へ緊急入院、診断は脳腫瘍でした。そこで、中央区福祉担当者と相談、生活保護が実現しました。阿倍野区文の里のマンションで1LDK4万2千円でした。釜ヶ崎では福祉マンションは3畳もしくは4.5畳で、トイレ・炊事場・風呂は共同が一般的ですが、ここは8畳です。一年位後、大家さんから「家賃を2か月滞納しているので、滞納分を保証人の野村さん払ってください」と言ってきました。本人を探すと、釜ヶ崎の仲間の所に隠れていました。話し合いの結果、滞納家賃を毎月2万円ずつ上乗せして、4か月で返済する。完済するまで預金通帳とカードを預かり、毎週月曜日1万5千円を渡すことにしました。4ヶ月後に完済、支援者から離れました。

2年位後の真夏、中央区のケースワーカーから「彼の孤独死が発見されました。死後1週間経っています」との電話がありました。荷物を預けていた二人に連絡、「ひどい異臭だった」と言っていました。後で、仲介の社長から「大家さんは特殊清掃と畳、壁の塗り替えで数十万かかったが、その後の入居者は皆無大損だった」と聞きました。テレビで孤独死問題をよく取り上げますが、自分自身が体験するとは思っても及ばない事でした。このマンションは数年後、建て替えられました。前を通るたびに彼とのかかわりを思い返しご冥福をお祈りしています。



◇「オレは神父か、ヤーさんか」

もう一人はYさんです。人手が足りない時、ご飯の盛り付けを頼みましたが、手つきが大変うまい。聞くと、元調理師でした。急病で大阪医療センターに入院しましたが、調理関係の就活努力が認められ、生活保護が実現しました。数か月後、「相談があります」というので会いました。すると、商品券5000円を持ち出し、「お世話になり、大変助かりました。あのまま野宿生活をしていたら、どうなっていたか分からない。ぜひこの気持ちを受け取ってほしい」と言います。「当たり前のことをしてただけだ」と押し返しましたが、こういうのです。「初めは何で野村さんが親切にしてくれるのかわからなかった。きっと組関係の人だろう。



後でヤクを売れとか、ノミ屋を手伝えと言ってくるのではないかと思っていましたが、間違っていました。そんな誤解をして申し訳ありません」「じゃあ、オレの身分が明らかになったから今回限りですよ」と貰いました。

その以前に、ボランティアに来られた女性から「神父さんですか」と聞かれたことがあり、「オレは神父か、ヤーさんか」、間違いの幅の広さに自笑しました。

◇神がかりなハプニングが起きた

私は「2021 正義と平和大阪大会」第14分科会(釜ヶ崎)で総括責任者から釜ヶ崎の体験報告を求められました。この 2 人のエピソードも紹介する予定でした。ところが、なんと、神がかりなハプニングが起きたのです。

大会2日前、いつも通り、「ふるさとの家」のミサに行きました。見かけない白髪のマスクの男性が入ってきました。妻が「Y さんと違う? あの人の眼よ!」というのです。そこで「Y さんですか」と聞いたところ、「野村さん、久しぶりです」という返答。聞けば、福祉マンションで自炊生活していたが、体調の関係で食事付きの施設に入っているとのこと。「ここに来れば会えるかなと思ってきました」というのです。私は「なんと、明後日、カトリックの集会があり、あなたにヤーさんと間違えられた話をしようと思っていますところですよ」と返答しました。

彼は「その頃はそう思っていましたから、話してもらっても構いません」というのです。

二人だけしか知らないエピソードを 10 数年ぶりに話すことになり、しかも 2 日前に 2 人を合わせてやろうという神の仕業、奇跡的な偶然をいただいたとしか、言いようがありません。私の報告に「メリハリ」をつけていただいたと信じています。



ガリラヤの風では 皆様の投稿をお待ちしています。

エピソード、最近気になっている話題、大切にしていること、思ったこと感じたことなどなどを投稿してください。

文章だけでなく、絵や詩、漫画などでの表現も大歓迎です!!
必ずタイトルを付けてください。文字の場合は 800 字まででお願いします。
※掲載は頂いた原稿をもとに編集部とやり取りをさせて頂くことがあります。

投稿先

〒540-0004 大阪市中央区玉造 2-24-22

電話：06-6942-1784

メール：sinapis@osaka.catholic.jp

※メールの場合は件名に「ガリラヤの風投稿」と御明記ください。

※投稿は書面だけではなくお電話で承る事もできます。

教えてください～！！第21弾！

「エコロジカルな回心」とは？



次世代に伝える責任

教皇フランシスコは年頭の「世界平和の日のメッセージ」で、わたしたちがともに暮らす家を次世代に引き渡すために、世代間で対話を行い、若者を励ましていくことを勧めています。どうしたら次世代に伝えていくことができるのか、身近な取り組みを探しているときに、大阪府門真市の大阪愛徳幼稚園が、園児と一緒に SDGs に取り組んでいることを知り、早速園長の鈴木順子先生にお話をうかがいました。

大阪愛徳幼稚園では、給食や遊びをはじめとするこどもたちの生活の中で、自然に環境を大切にすることに気持ちが向くよう、様々な仕組みを作っています。そのきっかけは、昨年園長に就任した鈴木先生が 2021 年の夏休みに職員に出した宿題でした。

「こどもたちと一緒にできる SDGs の取り組みを考えよう！」
休み明けに職員が持ち寄ったアイデアをもとに多様な取り組みが始まりました。



大阪愛徳幼稚園 HP より

すべての子どもたちが暮らす地球を守るために

海・陸の豊かさも食材を作る人も守る

幼稚園の給食は、出来るだけフェアトレードの食材を使い、魚の場合、その季節にとれるもののみをいただきます。



旬が詰まった給食 大阪愛徳幼稚園 HP より

例えば・・・



使いかたを考える

電気を消すのは、最後に部屋を出るこどもの役割に。トイレトーパーは使い過ぎないように、壁に目安の長さがわかるようテープを貼ります。水道の水は出しっぱなしにしません。

遊びながら学ぶ

年少組のこどもたちは、リサイクルやごみの分別について学びます。集めたペットボトルを自分たちでキャップ、ボトル、ラベルに分け、それが燃えるゴミ、プラスチック、ペットボトルのどの箱に入るか考えて入れていきます。年長組のこどもたちは廃材の段ボールやプラスチックを使って日々ユニークな作品作りに励んでいます。



野菜は土から

種や苗から育てた野菜はこどもたちと一緒に下ごしらえをして給食に。野菜の皮や茎や種は、捨てずに堆肥化して園内の畑に返します。

園長先生自らが地球儀を片手にお話しに回ります

鈴木先生は、園長就任以来、地球儀を片手にクラスを回り、肌の色や言語、生活環境も違うこどもたちが地球には沢山いること、ともに暮らしていることを園児たちに話しているそうです。



食べることも、使うことも、少しやり方を変えると、様々な背景を持つこどもたちがともに健やかに暮らしていくことにつながる。こどもの目線から考え、一緒にできることを教えていただきました。鈴木先生、ありがとうございました！



みなさんがご存じのことを教えてください

たとえばこんなこと

1. 環境のためにしていること、昔から言い伝えられている知恵

2. 「エコロジカルな回心」を次世代に伝える方法やアイデア

☆お名前またはニックネーム _____

☆連絡先（メールアドレスや電話番号など）

☆投稿方法 FAX : 06-6920-2203 / メール : sinapis@osaka.catholic.jp

QR コード *

* QR コードの読み込みには、スマートフォンなどで QR コードリーダーをダウンロード
することが必要です。



みんなの けいじばん

年末の寄付の呼びかけに応え、沢山の方から救援物資を頂きました。
冬服や日持ちする食品、お菓子などを皆で分けて年末年始を乗り切りました。
今回ご寄付をくださった皆さま、日頃より寄付をしてくださる皆さま
本当に有難うございます。

今回はその中のひとつを紹介させていただきます。

OKINAWA
から



沖縄県那覇教区信徒の山田圭吾さんより、
今年もたくさんの沖縄特産品を頂きました！



年末みんなで分けて美味しく頂きました。圭吾さん有難うございました。
なかでも移住者たちが「うまっ！」と言ったのが、
沖縄クレープの素『ちんびん』、チーズを入れて焼いたとか。
皆、沖縄クレープのファンになりました！



ご連絡

お待ちしております！



豆記者募集！！

シナピスでは、「こどもたちに伝えたい平和」をテーマに小教区でまわりの方に取材をしてくれる豆記者を募集しています。

教皇の世界平和メッセージにある「世代間対話を大切にすること」を目指し、子どもたちが教区で平和について取材をしたものをシナピスニュースに記事として載せたいと思っています。

我こそはと思う豆記者、我が教会の子を推薦したいという方、ぜひシナピスまでご連絡ください。

ボランティア募集！！

シナピスでは、活動のお手伝いをしてくださるボランティアの方を募集しています。

☆お手伝い内容☆

- ・事務所での電話番
- ・封筒のあて名書き
- ・シナピス工房作業
編物 縫物 工作 発送 など
- ・語学を活かして通訳・翻訳
- ・入管面会、移住者の病院付き添い
などなど

待って
まあ〜す！！

「みんなのけいじばん」では

小教区のお知らせや取り組み、社会活動委員会の様子などの投稿をお待ちしています。コロナ禍で集えないなかであっても、工夫をこらして様々な取り組みがされています。

取り組み以外でも、「教会できれいなお花が咲いた」・「ちょっぴりうれしかったできごと」な〜んていう投稿もお待ちしています。みなさん、ドシドシご紹介ください。

シナピス 豆記者・ボランティア募集・掲示板投稿 連絡先

〒540-0004 大阪府中央区玉造 2-24-22

電話：06-6942-1784

メール：sinapis@osaka.catholic.jp

※メールの場合は

件名に「豆記者希望」「ボランティア希望」「掲示板投稿」を、
本文にお名前とご連絡先をお願いします。

※投稿は書面だけではなくお電話で承ることもできます。



憲法 9 条に NO を！

「憲法改悪を許さない全国署名」のお願い

2021 年の 6 月改憲の是非を問う手続きを定めた「改正国民投票法」が成立し、岸田政権は「改憲」に向けた動きを強めています。9 条改憲 NO! 全国市民アクションは署名用紙をリニューアルしました。

今まで署名してくださった方も、再度署名いただけます。声をかけあって広めましょう。

集約先は「日本カトリック正義と平和協議会」です。

署名用紙を複数お入り用の方もこちらまで

〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10

日本カトリック会館 6 階 ☎：03-5632-4444

活動へのご支援ご協力

よろしく願いいたします。

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス

難民移住移動者支援もよろしく願いいたします。



食料品提供のお願い
缶詰、ハラル食品、レトルト食品
インスタントラーメン
テレフォンカード、不織布マスク
男性用（3L〜）防寒下着(新品)など
お電話をお待ちしています！！
☎06-6942-1784

HP はこちらから▶

<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>



あとがき

「新型コロナウイルス」3 年目に突入。世界病者の日のメッセージで教皇フランシスコは「あなたがたの父があわれみ深いように、あなたがたもあわれみ深い者となりなさい」(ルカ)をテーマにあげています。先月コロナウイルスに感染しました。陽性の判定を聞いた瞬間死を意識しました。自宅で部屋から出られない孤立感と不安感。そんな中毎日、家族、同僚、友人たちが SNS でメッセージを送り続けてくれました。しかし体調は悪化し、入院を余儀なくされました。容赦なく恐怖が襲いました。部屋ではウイルスが漏れでないよう大きな陰圧機がフル回転し、24 時間うなっていました。フェイスシールド、マスク、不織布のガウン、手袋、長靴で身を包んだ看護師さんたちは常に気にかけ、やさしい笑顔で私の不安を払拭してくださいました。熱でうなされている時、「所長からアイスの差し入れですよ。」と差し出してくださった小豆バー。ひとくち口にしたとき「あー一生かされている」と涙が出ました。私が今あるのは、孤独から救ってくれた人たちと、日々リスクを背負いながら、患者の私に向き合ってくださった医療従事者の皆さんの「あわれみ」が支えとなったからです。今も多くの方が闘っておられます。あわれみ深く、愛の道にあって苦しむ人の傍らに。(H)

▽▲▽ シナピスの主な活動 ▽▲▽

◆広報活動

- ・教皇メッセージ、司教団メッセージ等
社会活動の指針の伝達
- ・読者と教会内外の社会活動をつなぐ
機関誌としてシナピスニュースを発行

◆大阪教区・社会活動委員会との連携

◆学習会研修会の企画

◆こども基金

世界・日本のこどもたちへの援助

◆カトリック中央協議会との連携

正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、
カリタス、部落差別人権委員会に委員を派遣

◆人権教育の講師を務めるなど教育機関への働きかけ

◆難民移住移動者支援

難民移住移動者の暮らしやすい社会を目指して

難民移住移動者 相談ダイヤル

☎ 06-6941-4999

アクセス

〒540-0004 大阪市中央区玉造 2-24-22

カトリック大阪大司教区事務局内



公共交通機関ご利用の場合

JR 森ノ宮駅より 約 1000m

地下鉄中央線森ノ宮 2 号出口より 約 800m

JR 玉造駅より 約 1000m

地下鉄鶴見線地蔵玉造 1 号出口より 約 800m

車でお越しの場合

阪神高速 13 号東大阪線法門坂出口

法門坂交差点南へ上町を東へ

活動へのご支援ご協力をおねがいします

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス

カトリック正義と平和協議会全国集会 大阪大会 2021. 11. 22～23

“すべてのいのちを守ろう”

～誰も置き去りにしない世界に向けて No one will be left behind～



地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス（からし種）です。
イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って
平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

シナピスの風

* 行事はコロナ感染症の影響で延期または中止になることがあります。ご参加の際は連絡先にお問い合わせください。

第 145 号 2022 年 2 月 6 日発行

2 月の祈り

国境なき世界を願って

父なる神よ、
わたしたち、兄弟姉妹は
あなたを頭とする大きな家族です。
多様性に満ちた素晴らしい家族です。
ことばが違い、肌の色も違います。
それぞれ特徴ある文化の中で育っています。
あなたをさまざまな名前呼びますが
あなたの愛のうちに生きていきたい望みは一
緒です。
ひとりひとりが与えられた命はすべて
あなたにその源泉があります。
皆が同じ、あなたの子どもです。
しかし、わたしたちは互いに壁を作り、
国境というものを作って、
兄弟姉妹を自分の家に迎えようとしません。
どこでも同じ家族の兄弟姉妹として
生きることのできる日を待ち望んでいます。
そのために働く決意を新たにします。
すべての兄弟姉妹を受け入れる心を
育むことができるようにお助けください。

シナピスでは、毎月のお祈りをニュースレターとともにお送り
しております。教会で、ご家庭で、日々のお祈りにお使いくだ
さい。シナピスのホームページからも、ダウンロードしてい
ただけます。

シナピス工房カタログ

新しいカタログができました。
混沌とした世の中ですが、気持ちが少しでも明るくなる
ように、心をこめてお届けいたします！！
喜びのシーン、洗礼式やイースターに。

祈りの集い

ミーティング ID・パスコードを変更しました。

日程：毎月第 2 木曜日 時間：20:30～(30 分)

次回：2 月 10 日(木)

開催方法：Zoom (100 名まで参加可能です)

下記 URL、ID & パスコード、
QR コードからご参加ください。▶▶▶ミーティング ID： 761 071 2034
パスコード： 123456

大阪大正区

沖縄タウンフィールドワーク

日時：2022 年 3 月 26 日 (土) 13:00～

場所：カトリックなみはや教会 案内人：安田耕一さん

沖縄へ行かず、沖縄を知ることのできるのが「沖縄タウン」で大阪市の
大正区にあります。大正区は本土＝ヤマトでは一番沖縄出身者の多いと
ころです。第一次世界大戦後の不況で砂糖価格が暴落、毒を含むソテツ
の実や、幹を食べて飢えを凌ぐ沖縄の人たちが、生きる術を求めて、阪
神の製紙、紡績などの工場に労働者として働きにきました。彼らが集住
できたのが大正区のくぼ地＝グブンガーでした。このくぼ地の沖縄出
身者の居住権闘争は部落解放同盟の経験を生かして、たたかわれまし
た。ナミお婆の「沖縄人を窪地グブンガーから追い出す前に、米軍に
奪われた沖縄の“わが土地”返せ」との正義を求める叫びの底深さを参加
者皆で学びたいと思います。

問合せ・申込み：カトリック大阪教会管区部落差別人権活動センター

☎:075-366-6609 FAX: 075-366-6679

E-mail: bukatsu@kyoto.catholic.jp



今年は県外の参加者は募りま
せんが、ともにお祈りください。

第 9 回いのちの光 3.15 フクシマ

「フクシマが背負ってきたものの伝え続けるもの」

◎講演会

日 時：3 月 12 日 (土) 14:00～

場 所：カトリック元寺小路教会(宮城県仙台市)

講 師：飛田晋秀さん (写真家)

「福島の実実」

◎ミサ・現地報告

日 時：3 月 15 日 (火) 14:00～

場 所：カトリック原町教会(福島県南相馬市)

司 式：幸田和生名誉司教

報 告：飛田晋秀さん (写真家)

主 催：「いのちの光 3.15 フクシマ」実行委員会 / 後援：カトリック仙台教区

協賛：日本基督教団東北教区放射能問題支援対策室いづみ

日本カトリック正義と平和協議会・カトリック正義と平和仙台協議会

問合せ：(TEL) 090-2022-4007 (木元)

(e-mail) inochinohikari315@yahoo.co.jp

継続中！ ハガキ & FAX

— シナピスにあります —

- ◆あれから 1 年。
いまだ混乱が続くミャンマーでは、人々
のいのちが脅かされ続けています。わた
したちにできる働きかけを続けましょう。
- ◆日本政府にアフガニスタンの難民を市民
として受け入れ、また日本在住の在
留資格のないアフガニスタン出身者を
本国に帰さないよう訴え、ともに祈り
ましょう。

シナピスホームページ

シナピス HP はこちらから

https://
sinapis.osaka.catholic.jp

食糧支援のお願い

コロナ禍で解雇された技能実習生、帰国できずに困
っている短期滞在者も増えています。日持ちのする
食品、ハラル食品、不織布マスクなどのご支援をお
願いします。



感謝





忘れない✿あきらめないカレンダー

どんな状況下でも、忘れず、あきらめず、希望をもって歩む皆さまに、情報を配信します。



2022年 2月 の 案 内

★印 カトリック関係

新型コロナウイルス感染症の影響で中止される場合があります。事前に各主催者へお問い合わせください。

祈祷の信徒 祈りの意向 2月

●世界共通の意向：＜福音宣教の意向：修道女と奉獻生活に召された女性＞

修道女と奉獻生活に召された女性の使命と勇氣に感謝し、祈ります。
現代のさまざまな課題について新しい対応を探し続けることができますように。

●日本の教会の意向：＜若者たち＞

次の世代を担う子どもや若者が、自らの役割に目覚め、神の国の実現に寄与できますように。

8	火	●映像で現代を語る会 ■場所：大阪市立北区民センター 18時～20時半 上映：「1Fリアルあの日、福島第一原発では・・・」「原爆初動調査 隠された真実」 会場費：300円 主催：映像で現代を語る会 問合せTel090-5151-9763（中森）
9	水	●3・9韓国大統領選挙をめぐる情勢と課題 ■場所：エルおおさか709号室 18時半～20時半 講師：金光男さん（O-K交流会共同代表）参加費：500円 主催：大阪・韓国連帯情報交流会（O-K交流会）✉：bfaud806@cwz.zaq.ne.jp 日朝・日韓連帯大阪連絡会議（ヨンデネット大阪）✉：yondenetosaka@gmail.com ●チムグクルで考えよう デニー知事トークキャラバンin神戸 ■オンライン開催 18時半～20時15分 講演：玉城デニー沖縄県知事 司会：榎森耕助さん（せやろがいおじさん） トークセッション参加予定者：柳澤協二さん、高崎庄二さん、齊加尚代さん、高作正博さん 参加費：無料 事前申込要 申込み期間：2022年2月8日（火）まで 申込：沖縄県辺野古対策課トークキャラバン https://forms.gle/isJUEML8kamKTWYPA 問合せ：トークキャラバン事務局 Tel098-869-4220（平日 9時半～18時）✉：talkcaravan@okicongre.jp
10	木	世界豆デー ●原発賠償関西訴訟 第32回口頭弁論期日 ■場所：大阪地方裁判所 13時本館または別館前集合 14時開廷 問合せ：原発賠償関西訴訟の応援団★KANSAIサポーターズ Tel070-5658-9566
11	金	科学における女性と女児の国際デー ●競争・強制でなく 命と人権を守る教育を！2.11集会 ■場所：天王寺区民センター 13時開場 13時半開会 講演：桜井智恵子さん（関西学院大学人間福祉研究科教授） 資料代：500円（学生・障がいのある方無料）手話通訳あり 保育が必要な方はご連絡ください 主催：「日の丸・君が代」強制反対大阪ネット 連絡先✉：yamadaK@nike.eonet.ne.jp（山田）
19	土	●憲法改悪を許さない おおさか総がかり行動 署名街頭宣伝 ■場所：上本町YUFURAショッピングモール前 16時～17時 主催 おおさか総がかり行動実行委員会 連絡先Tel090-4033-1376（松岡）
20	日	世界社会正義の日 ●第6回 狭山事件の再審を実現しよう市民のつどいin関西 ■場所：阿倍野区民センターホール 12時会場 13時開会 記念講演（リモート）：木谷明さん（弁護士・元東京高裁判事）「違法捜査と冤罪」 アピール：石川一雄さん、石川早智子さん（ビデオメッセージ） 袴田ひで子さん（リモート） 西山美香さん（湖東記念病院事件冤罪被害者 2020年再審無罪） 青木恵子さん（東住吉事件冤罪被害者2016年再審無罪） 連帯アピール：山本栄子さん（「歩」「いま、部落問題を語る」著者）「文字を知らなかった石川さんと私」 Zoom参加あり 無料 要申し込み：sayamakansai.com 資料代：500円（障がい者、高校生以下、しんどい方無料） 主催：狭山事件の再審を実現しよう市民のつどいin関西実行委員会 連絡先Tel090-3624-8270 ✉：sayama.kansai@gmail.com ●2022年韓国大統領選挙を考える集い ■場所：KCC会館5階Fホール 13時半開場 14時開会 第1部 講演：激動する韓国大統領選挙（仮） 講師：宋世一さん（韓統連委員長） 第2部 在日各界人士によるパネルディスカッション 参加費：800円（青年学生は500円） 主催：韓統連大阪本部 連絡先Tel090-3822-5823（崔） ●第17回リニア勉強会in大阪 危険な大深度地下トンネル工事！～家が、道路が、突然陥没～ ■場所：枚方市民会館 第6集会室14時～16時半 講師：長野宇規（たかのり）さん（神戸大学大学院農学研究科准教授） 参加費（資料代）：500円 車椅子使用の方要連絡 主催：リニア市民ネット・大阪 申込：（一財）日本熊森協会（日・祝・水休） Tel0798-22-4190 Fax0798-22-4196 ✉：imai@kumamori.org
21	月	国際母語デー [UNESCO]
23	水	●天皇誕生日祝賀反対！2・23大阪集会 ■場所：エルおおさか・606号 13時開場 1時半開始 講演：渡辺治さん（一橋大学名誉教授）「天皇制の現在一改憲と戦争への道」 資料代：800円（経済的に苦しい方は受付まで） 主催：参戦と天皇制に反対する連続行動 連絡先：関西単一労働組合 Tel/Fax 06-6303-0449
25	金	●STOP!森林破壊バイオマス発電～気候正義の実現に向けて、Z世代がいま伝えたいこと～（京都会場） ■場所：キャンパスプラザ京都第一会議室 19時～21時 オンラインあり 要申込 ✉：yururissy@gmail.com ゲスト：池澤美月さん（東北大学教育学部3年生） 嶋原宏一郎さん（東北大学法学部4年） 参加費：無料 主催：ウータン・森と生活を考える会 https://hutangroup.org/contactform

26	土	●STOP!森林破壊バイオマス発電～気候正義の実現に向けて、Z世代が伝えたいこと～(大阪会場) ■場所:ルマ・ボルネオ 14時半～16時半 オンラインあり 要申込 ✉:yururissy@gmail.com ゲスト:池澤美月さん(東北大学教育学部3年生) 嶋原宏一郎さん(東北大学法学部4年) 参加費:無料 主催:ウータン・森と生活を考える会 https://hutangroup.org/contactform
11	金	2011・3・11 東日本大震災
13	日	●さよなら原発2022関西アクション -原発やめて!核燃サイクル中止!- ■エルおおさか 大ホール 12時半開場 13時開演 講演:山崎誠(衆議院議員・立憲民主党)「原発ゼロ・核燃中止を実現するために」 講演:神田香織さん「ローマ教皇との運命の出会い」原発事故で避難した少年の物語 福島からの報告:菅野哲さん(飯館村農業) アピール:福井から 宮下正一さん(原発反対福井県民会議事務局長) 避難者から 下澤陽子さん 参加費:一般 前売800円 当日1000円 障がい者・学生 前売400円 当日500円 避難者・高校生以下は無料 デモ:16時 西梅田コース 主催:さよなら原発 関西アクション実行委員会 Tel/Fax 072-843-1904 http://stopthemonju/la.coocan.jp/
		